

# 下根ヶ丘餅つき大会

平成 28 年 12 月 18 日



年の瀬が迫る12月18日 地域の皆さんとの友好と交流の輪を広げようと自治会とたまり場会が共催して、餅つき大会を自治会館で開催しました、当日は穏やかな晴天の下、朝の8時30分にはボランティアの皆さん30名に集まっていたいただき、安全に元気で楽しくをモットーとし、役割分担、作業手順等によりさっそく行動を開始しました、

## ◎ 先ずはかま戸の火起こしから

釜のお湯を沸すのを最優先とし、かまど3台の火起こしから、もち米を2升(2, 8kg)ごとにセイロに移して蒸す、うす3台と杵をお湯で温めるなど餅つきを整える、テントの中では女性軍による餅ちりの受け入れ、会館の台所ではけんちん汁作りなど様々な準備を担当リーダーのもと手際よくこなしていく、真さに一丸となつてのチームプレーである



## ◎ 餅つきの日本文化にふれて



釜の沸騰も最盛期となり、もち米の蒸し具合を確かめてセイロごとうすに移す、待ち構えている餅つき担当の出番である。

餅のでき具合を左右する大事なこね、2人で体重と足腰でリズムとりながら行う。続いてつく人と返す人が相対して掛け声をかけながらどんどんつく、体力自慢の協力者も加わって交代しながら、用意した30kgのもち米をつくことができた。身近で力強いその迫力に圧倒されるとともに懐かしい伝統の文化に感動しました。

## ◎ 人気だった子どもさんの餅つき

子ども用のうすと杵を用意し、小学生や幼児に餅つき体験の呼びかけに人気が集まりました。担当する小父さんの手ほどきを受けながら、親子で杵をもって元気に楽しくついている光景は真に感無量です。



未来を担う子どもたちにとって、自分たちの地域を愛し、伝統の餅つき文化を体験できたことは、貴重な思い出になることでしょう。

## ◎ 牛久一中ボランティア部の協力



今回は牛久第一中学校のボランティア部から大竹校長、先生3名、生徒11名の皆さんに餅つき、餅きり、配膳などのお手伝いをして頂きました。校長、3人の先生方も餅つきに加わり生徒たちの声援を受けながら頑張っていた。

また地元の皆さんとお餅を食べながら交流を図るなど、ボランティア活動としてよい体験となったことでしょう。

帰りに際しては丸餅を手お土産にして皆さんの見送りを受けて会場を後にしました、ご協力ありがとうございます。



## ◎ 活かされたリハーサル

自治会として餅つき大会の経験もなく、2～3回の打合わせ会議だけで果たして出来るのか不安がよぎる、その為には事前のリハーサルによる体験が必要と判断し、前日にスタッフ全員が集まって行った。もち米の蒸しから餅の出来あがるまでの作業要領、所要時間、注意することなどを確認し合った、その結果が自信と余裕となって本番で活かされ、概ね想定どおり順調にして無事に終了することができました。

## ◎ 美味しかったお餅

今回の餅つき大会では200名を想定したもち米を用意しましたが、実際に出来あがった餅の量（一人あたり、あんこ2個、きなこ2個、雑煮1個）は、予想を40人分ほど超える量となり、全員の方が安心して食べて頂きました。



会館内はお客さんで溢れゆっくり食べることができなかったが、つきたてのあんこ、きなこ餅、温かいけんちん汁の雑煮など、皆さんに美味しかったと喜んで食べて頂きうれしかったです。食後は子どもさんのゲーム遊び、自治会員による民謡、カラオケ、大道芸などの余興で盛りあがり楽しいひとときとなりました。



最後にノロウイルス菌の流行の心配もあったが、感染対策を徹底するなど全員で一致団結して運営に活動に絶大なる協力と安全・安心を心掛け無事に終了することができました、多くのボランティア、自治会の皆様に感謝いたします、そしてこの体験が地域コミュニティーの活性として、次回へと継承されることを期待します。

